

## 第4回 米沢産業高校（仮称）教育基本計画策定委員会 記録（概要）

1 日 時 令和3年2月1日（月）10：00～11：30

2 会 場 県庁1602会議室

3 参加者 委員長（座長）、副委員長、委員8名

4 内 容

- 1 県教育委員会あいさつ
- 2 報告
  - (1) 第3回教育基本計画策定委員会の概要
  - (2) 教育基本計画(案)についての意見聴取の結果について
- 3 協議
  - (1) 定時制の教育活動のイメージ(案)
  - (2) 米沢産業高校(仮称)教育基本計画(案)
  - (3) その他

5 発言要旨

2 報告 事務局長より説明

(1) 第3回教育基本計画策定委員会の概要

質問等なし。

(2) 教育基本計画（案）についての意見聴取の結果について

質問等なし。

3 協議

(1) 定時制の教育活動のイメージ（案） 部会長より提案

（委員）

定時制に入学する生徒の通学範囲は、昼間定時制に移行することによって、現在より広がるのが考えられるが、JRの発着時刻を参考にして日課を検討する際は、フラワー長井線やJR米坂線の発着時刻も考慮に入れてのものだったか教えてほしい。

（部会長）

JR奥羽本線と米坂線やフラワー長井線を考慮して検討したところである。

（委員）

生徒の負担や授業参加へのしやすさという観点に立った場合、どのパターンが最も適切であるか。高校現場の先生の立場から、考えを教えてほしい。

（部会長）

全日制の3校時から6校時まで授業を行う、パターン3の時間帯が最も良いと考えた。登校の時間帯に関して全日制と重ならないことや、放課後の活動時間などから、生徒が学校生活を送る上で、最も過ごしやすい時間帯であると考えている。なお、今回了承されるパターンを軸に、開校整備委員会ではより綿密に検証し、詳細な時間設

定を検討していく予定である。

(座 長)

特に反対意見はないようなので、原案の通り承認ということで進めさせていただく。

(2) 米沢産業高校（仮称）教育基本計画（案） 部会長・副部会長・事務局より提案

(委 員)

13ページ「ウ 教育活動のイメージ」をみると、定時制は令和7年度から令和8年度にかけて、教育活動を行う時間帯が大きく変化するため、令和7年度と令和8年度の切り替わりの時期に、何らかの対応が必要ではないか。

(事務局)

入学時は夜間定時制で、途中から昼間定時制へ移行する時期の入学生に対しては、募集段階から周知をし、理解した上で入学してもらうよう進めていきたい。また、県内においては、県立酒田西高校において、夜間定時制から昼間定時制に移行した事例があり、今後、酒田西高校から、留意点や実施した支援策等の情報を収集して、進めていきたい。

(委 員)

時間帯の移行を理解して入学したとしても、実際に移行した際には、時間帯の差が大きく、苦勞する生徒が出る可能性があるため、先生方にはその支援ができるよう準備をお願いしたい。

(座 長)

特に反対意見はないようなので、原案の通り承認ということで進めさせていただく。

(事務局)

今後は、事務局で文言の修正や最終確認を行い、3月中旬から下旬を目処に「教育基本計画」を完成させたいと考えている。修正内容について、最終的な判断は、委員長に御一任いただきたいがどうか。

(座 長)

異議がないことから、事務局長の提案のとおり進めることとする。

(3) その他 ※これまでの議論の感想や今後の開校準備に期待することなど

(委 員)

前回、前々回で出された意見を丁寧に取り入れていただき、かなり練られた案になってきたと認識している。これから教育基本計画が具現化されていくことになるが、米沢産業高校(仮称)の誕生とともに、山形大学との連携をより進めてもらうことを期待する。具体的な教育課程や課外活動の検討において、山形大学を利用するなど、高校と大学が連携して、山形、米沢から新しい産業を生み出すサイクルをつくっていったら良いと考えている。今後とも協力していきたい。

(委 員)

前回までの課題を丁寧に検討していただけたと感じている。全日制では、持続可能な米沢、置賜地区の担い手を育てるとともに、定時制でも、多様な子ども達が将来の自立を目指した学びを受けることができると分かり、大変うれしく思っている。これからも、できることがあれば、協力を続けていきたい。

(委員)

意見を十分に取り入れて検討していただいたと感じている。米沢の将来の産業を担う人材を是非育成してほしい。米沢産業高校(仮称)が大学や米沢市の産業界と連携した学びを展開することに、市としても期待している。今後も素晴らしい学校になるように協力したい。

(委員)

小中学校でも少子化に伴い統合が進んでいるが、高校の統合は規模が大きく、多くの人に関わり、大変な御苦勞があったものと推察している。開校に向けて大切なことは、ただ開校させるのではなく、生徒達が充実した学校生活を送ることができるか、どんな有為な人材を輩出することができるかが重要であると考えている。また、初年度にどれだけ米沢産業高校(仮称)への入学を希望する生徒がいるかについても大切なことであると思う。これからも多岐にわたって協議をしていくと思うが、魅力ある学校とするために、挑戦していってほしい。

(部会長)

応援していただく声ばかりをいただき、やりがいをもって、前向きに新しい学校づくりに取り組むことができた。目指したい学校は、中学生が入りたい、学びたい学校、その保護者が入れて良かったと思える学校、卒業生が入って良かったと感じる学校である。これからの学びは、学校単独で行ったり、学校内のみで留まったりするものではない。これからの学校づくりにあたっては、米沢市や商工会、産業界等の支援をいただきながら、地域の中で活躍されている方からアドバイスをいただいたり、その方の熱意を肌で感じたりすることや、自分の郷土を自分の目で見て、感じたりすることなどを通して、生徒の深い学びが実現できるようにしていきたい。

(副部会長)

米沢工業高校、米沢商業高校ともに創立100年以上の伝統ある学校であり、新しくできる高校も100年続くことを願っている。そして新高校は、置賜、米沢の産業界を牽引し、元気を与える高校であってほしいと願っている。今回の統合によって、県立高校の商業科の単独校はなくなり、寂しさを感じているものの、これまで商業高校として培ってきた学びに加え、工業科、大学、地域産業界との関わりの中で、新たな学びが生まれることを非常に楽しみにしている。

(座長)

お話いただいた内容については、これからの開校準備に反映させ、地域の方々や県民の期待に応えられるよう努力していく。